

# 寅さん歩 その19

## バーチャルウォークで

## 中山道（東下り）を歩くー8



平野 武宏

バーチャルウォーク東海道五十三次で京都・三条大橋に到着した寅次郎、帰路はバーチャルウォーク中山道六十九次で江戸・日本橋へ戻ります。

今回は各宿場を紹介しながら、京都からの中山道（東下り）を楽しみます。

各宿場の紹介は山と溪谷社の「歩いて旅する中山道」を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。

前回は三留野宿から福島宿まで歩きました。今回は宮ノ越宿から本山宿まで歩きます。

[宮ノ越宿] 長野県木曾郡木曾町日義

最寄駅 JR中央本線 宮ノ越駅

2024年4月11日宮ノ越宿（京都・三条大橋から267km）に到着しました。中山道の約半分まで来ました。宮ノ越宿は木曾義仲のゆかりの地です。義仲は2歳で武蔵国から木曾に逃れてきて、この地の豪族 中原兼遠によりひそかに養育されたと伝わります。平家追討のため宮ノ越で挙兵、北陸の倶利伽羅峠で平家の大軍を撃破しました。その後、源氏の鎌倉軍に敗れ、31歳で討ち死にしています。義仲の墓や資料館 義仲館（写真下左）があります。写真下右は宮ノ越本陣跡です。



**[藪原宿]** 長野県木曾郡木祖村藪原 最寄駅 JR中央本線 藪原駅

2024年4月13日藪原宿（京都・三条大橋から275km）に到着です。

写真下左は藪原宿の家並みです。この宿はミネバリという木で作った「お六櫛」で全国に広く知られ、江戸後期には宿内の8割近くの家が櫛に関わる仕事をしていましたが、今は数軒しか残っていません。写真下右はお六櫛問屋の看板がある家です。



写真左はお六櫛です。持病の頭痛に悩んでいた村娘 お六が治癒を祈り、願をかけて所、ミネバリの櫛を作り、髪をとかせとのお告げがあり、お告げ通りにした所、頭痛が治ったとのこと。このことが知れ渡り、享保の頃に藪原宿の名物になったそうです。

**[奈良井宿]** 長野県塩尻市奈良井 最寄駅 JR中央本線 奈良井駅

2024年4月14日奈良井宿（京都・三条大橋から280km）に到着しました。

木曾路最大の難所といわれた鳥居峠を越えると奈良井宿です。曲物や漆器と言った工芸が盛んだったこともあり、往時は「奈良井千軒」と呼ばれるほど繁栄した宿場です。約1kmに続く家並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています（写真下左右）。



写真左は米粉で練って作った餅に餡を包んで朴葉にくるみ井草で縛って蒸しあげた「朴葉巻き」です。朴葉の香が餅に移った新緑の季節らしい清々しい味わいが特徴です。餅が包みやすい若葉が朴葉の収穫できる初夏の木曽の郷土料理です。

## 【間の宿 平沢】 長野県塩尻市木曽平沢

最寄駅 JR 中央本線 木曽平沢駅

間の宿 平沢は古くから漆器の生産が盛んで、漆器を生業にする人々が集住していました。現在も街道沿いには漆器店（写真下右）が並んでいます。町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区（写真下左）に選定されています。



**[贄川宿]** 長野県塩尻市贄川

最寄駅 JR中央本線 贄川駅

2024年4月18日贄川（にえかわ）宿（京都・三条大橋から288km）に到着しました。



贄川宿は京から来ると木曾路最後の宿場で関所（写真上左）が置かれていました。宿場は1931年（昭和6年）の大火でほとんどの建物が焼失してしまいました。写真上右は残った建物です。

これにて木曾路は終り、信濃路（長野県）に入ります。

**[本山宿]** 長野県塩尻市宗賀本山

最寄駅 JR中央本線 塩尻駅からバス利用

2024年4月19日本山（もとやま）宿（京都・三条大橋から295km）に到着しました。1861年（文久元年）11月4日、降嫁の皇女和宮が本山宿に宿泊しています。京方、江戸方、松本藩の警護は総勢8万人が4日にわたり通行し、仮小屋は隣の洗馬宿まで連なったといわれます、今はひっそりした家並み（写真下左）です。街道筋には石造群（写真下右）が並んでいます。





本山宿は「そば切りの里」で、そば切り発祥の地です。そばは古くはそば粉を湯で溶いたそばがきやそば焼きもちで食べられていました。現在のような細切りのそばが生まれたのは江戸時代の頃からで、本山がその発祥です。参勤交代の大名を始め、旅人が賞味して全国に広まったといわれます。

今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝